大冶鐵山の沿革及現況

西澤公雄

熱誠なる慫慂を辱し、奮て本題を起稿せりと雖も予か既往駐冶十六年間所有する、渾身の勇と拚命の誠とを以て、我製鐵事業の基礎確立に向て突進せし趣味ある幾多の折衝は、孰れも機密事項に屬し、職責上無忌憚之を公表する能はざるものあるか故に、今此稿の自ら活氣縱横を缺くる處あるは、偏に讀者諸彦の鑒諒首肯に俟つある己而と云爾矣。

大冶鐵鑛は西暦千八百九十年(光緒十六年明治二十三年)獨逸技師に依て發見せられたるものに係る、然して其發見査誓の動機は歴史家の一粲に値し、實に故張之洞の頴悧聰明、博識達見に歸因す、光緒十六年の春清國官憲の間に製鐵事業を創開するの企劃あるに方り、當初に適切緊急問題として原料鐵鑛の所在産地を討議するや、皆孰れも探鑛上の智識空漠にして殆んと其方針を定むるに踟躕の色あり、張之洞は古史に所謂「大阿之劍」の一語あるを追憶し其字義の轉訛より、現今の大冶縣を聯想し其文字既に大に鍛冶の意義を有し、且つ古來清國の地名の往々土地に包藏する鑛産物と符合するものあるに想到し、倘或は楊子江畔に於ける湖北の大冶は之に該當するものにあらざるなからんやとて、其附近を中心として鑛脈の調査を開始するを得策とするの説を主張し、廟議の許容する所となり獨逸國人を雇聘して主任技師となし、專ら此方面の鐵鑛調査に全力を傾注したりと云ふ。

當時派遣せられたる獨逸技師は楊子江岸より漸次山野に進み、行程約二三十哩を跋渉して經過日子二旬に及ひ不圖古代製鐵の遺蹟に到達し、空前の大發見を大成し歡天喜地の餘之を本國政府に內

報し、秘かに一策を献せしものゝ如し、幾くもなく當時の獨逸公使は北京總理衙門に交渉するに大冶鐵道の敷設と鐵山開掘の二割讓權を獲んとするの意見を公表し、之れか磋商を迫れり、然り而して未た鑛山調査完結の報告をたに耳にせさる張總督等以下清國官憲は此知照を手にするや、周章狼狽策の出る所を知らす、鳩首凝議の後漸く口を極めて獨逸技師の暴慢無道を詰責し、清國に不利益なる該提案を絶對に非認し、同時に交渉書類の返附却下を抗爭し彼我論難荏苒數月を徒消し、清國は只纔に利權割讓の屈辱を阻擋し得たるも、外交術に巧妙なる獨逸は爾後幾多の樽俎折衝に權數の機微を弄し、遂に同國技術者の雇聘と同國機械の購買との握要必須なる二條件を承諾せしめ、交換的に最初の提議主張を放棄することとなれり、是れ則ち獨逸の勢力か湖廣地方に瀰蔓するの權輿にして、就中楊子江畔に於ける諸工業に關し同國輓近の進歩發展は殆んと英國勢力圏を侵蝕遮掩するのみならす、勃然、として已に一頭地を抜き彼の通商的神機妙算、變幻無極の辣手と相俟て列國の耳目を聳動震慴せしむるものあるは、畢竟茲に其根底を萠芽せるものと知るへし。

原料鐵鑛已に江畔に豐富無盡藏にして製鐵の前途頗る有望なること判然せしを以て、清國官憲は斷乎決意する所あり、西暦千八百九十一年を以て地を漢陽に卜し卒先して東洋唯一たる鐵政廠の創設に着手せり、設計に要せし總資本は最初六百五十萬兩の豫定なりしも、後增資の必要に迫られ一千萬兩と爲せり、其經營籌劃の任は白耳義シンヂゲート、コッケルリング會社之を擔當し機械は主として英國ミッドルスボローチリーサイド會社より購入せり、然して鐵山鐵道に要する機關器具一切は契約に準據して全部悉く之を獨逸より供給を仰きしことは不可疑事實なりとす、鐵廠工事完成するに迨ひ白耳義技師を雇聘し技術運轉を司らしめ作業を開始せしも、當時湖廣總督府の財政逼迫窮乏に瀕し其經濟到底製鐵業の進運に幸せす、一時全般の作業を中止することとなれり。

此秋に方り白耳義人を嫉妬し排車軋轢氷炭相容れさるの狀況にありし獨逸人は、好機逸すへから

すとなし、百方得意の奇謀奸策を繞し、遂に千八百九十四年に至り獨逸銀行より三百萬兩の借款を提供し、其條件の一として獨逸技師雇聘せられて鐵廠に入り、白耳義人と交替せり、曾て本邦八幡製鐵所技師たりしトッペも亦此時雇聘者の列に入りしものなり、斯くの如くして製鐵廠の作業は再始せられしも幾くもなくして、張總督と獨逸技術者との一大衝突は端なく同廠の革新を促し、專横跋扈傍若無人の行爲を敢せし清國官憲の嫌忌怨恨を招きし獨逸人は悉く解雇せられ、白耳義人更に入て再ひ同廠技術の鎖鑰を握り樞機に參することを得たり、久しく漢陽鐵政廠に技師長として清國官民より至大の優待を受けたりし、彼のルバート、ブーネーは當時の被聘者の一人なりしなり。

是より先き、胸中の忿懣鬱結不禁ものありし清國大官は、苦心慘憺、紊亂錯糾せる財政を整理し、一面白耳義シンヂゲートより、三百萬兩を借入れ以て獨逸銀行に返濟し獨逸人との關係を全然絶つに至れり、而して漢陽鐵廠の創立と同時に大冶鐵道も亦新に敷設工事に着手し、鐵山の採掘設計も劃策進捗せられたり、當時被雇聘者中の主なるものシュワール、パトポク、バイシル、マクス、ライノン、レイル、ペリサー、シロパ、リモール等にして、助手技手を合する時は、一時二十七人の多數に上りしか如し、右の内ライノンは萍鄉炭山萍昭鐵道の技師長として、普く世人に其名を知られたるのみならす清國官民の信賴も亦淺少にあらす、漢口上流獨逸勢力圈内に於ける技術者の牛耳を把握し、同國實業界中代表重鎮となれり、斯くして獨逸は一切の材料及技術者を提供し、千八百九十二年に至て鐵山採掘の設備と大冶鐵道の工事とを完結したるものに係れり、然かも鐵路は努めて彎曲の度を延長せるの形跡歴々今日に於て指摘すへきものあるのみならす、當時獨逸より輸入せる高價なる機器の空しく山間に蝕鏽のまゝ遺棄せられたるを目擊せし予は獨逸人の外交手段を忖度し、其心理の狀態に追想し頗る其惡辣に驚けり、此時に當り、清國官憲は唯僅に大冶鑛務局を置き林佐、李增榮の二人をして大冶に總辦たらしめたるに過きさりしも是亦拱手傍觀に止り、殆んと主要なる事務は仍獨逸人の掌握する所と

なり、益其跳梁を極め如何なる手腕ある清國當局も、之れか扞掣策を施すに由なかりしか如し。

一千八百九十五年(光緒二十一年)明治二十八年湖廣總督は日清戰役後の困憊疲弊を承け、償金の負擔亦重く加ふるに變法自强の一大革新を斷行するの費途萬端にして、既往の冗耗糜費を節約するも尙多大の缺陷短虧を免れず、爲めに鐵政廠の維持に困難窮迫を訴へ某外國の熱望せる、購讓磋商に應するの意志ありしも、時恰も軍器獨立、製鐵擴張の議朝野に勃興し、廟議は之れか讓與を允許せさるのみならず、進て發展策の研究を命せり、然かも事實に於て之を維持し難きを以て、結局之を盛宣懷に協議し、其肯諾を得種々熟議の末六百萬兩を以て、鐵廠鐵山鐵路一切を擧て同人に交讓することゝなれり、是れ實に光緒二十二年春三月にして鐵路大臣、商約大臣、電報局督辦等官界樞要の地位を占むるのみならず、招商局の全權すら把握せる盛宣懷は、今又鐵廠鐵山を自己藥籠に收め更に萍鄉炭山を獲得し、其權勢の隆旺なる旭日冲天の狀況を呈し、殆んと何人と雖も之に對抗し能はさりし感ありしなり、彼れ已に虎翼を添ふ、躍踴活動意表に出て往々破天荒の敏捷快速を以て鑛務鐵政に改抹斧削を斷行し、當時清國人中、比較的工業に關する智識を具備せる人才、盛春頤、張贊宸、李維格、楊綬卿等を總辦として重用し、歐米最近の製鐵事業を精査綜核せしめて之を模範し、幾多の革新を急施し、孜々不撓遂に完全なる清國の製鐵所を形成するに至れるものなり。

盛宣懷か大冶鐵山鐵路を統轄するに及んで、今日に至るまて大冶鑛務總局總辦の任、免更迭を見ること一再に止まらす、即第一回の總辦たりしものは亢廷榮にして、其任期極て短く之に次て張世祁就任す、張は爲人極て温順且つ博識にして時務に通す、盛宣懷亦極て彼を信賴し、夫の有名なる東洋唯一の獅子山鐵鑛は僅に八百弗を以て張の在任中土民より購入せるものなりと云ふ、其繼嗣は則現今の大冶電報局長張繼祖其人なり、不幸にして張世祁在任日淺くして死歿し、莊慶孫之に代り次て幾くもなく解茂承山東より來て又之と更代し總辦の職に就けり、彼は武斷的行爲を敢てし職員の黜陟を專

擅し、一種の黨閥、緣攀、此間に胚胎し爲に局課尙吳越の觀あらしむ、殊に排日熱を鼓吹し、日淸鑛務の關係を損傷すること尠からざりしか革職せられたり。

其後宗得福上海より赴任し鑛務再活氣を呈す、彼は溫厚の君子にして聰明卓識能く文明的時務を解す、鐵山鐵路の修理改築竝に緊切なる新設工事を躊躇なく斷行し我駐在官民に對し親睦和惇極て好意を體して社交を重し、現に尙長江江畔に聳立する本邦官署、大冶醫院、大冶倶樂部の如き孰れも當時予と彼れとの協商に基き盛宣懷之に賛して築造せしものに係れり、惜哉宗は在任僅に滿二年に垂んとして早く已に鬼籍に入り、劉琪漢陽より來て一時署理せしも約半歲の後王錫綬の就任を見たり、彼は所謂支那の讀書人にして老成能く部下を統禦するに勝ゆるも文明的事務を爲すの人にあらず、千九百十一年武昌に革命動亂發生し、長江一帶悉く白旗を揭て之に響應し到る處血雨腥風の慘狀見るに耐へざるものありしに拘はらず、大冶の天地は超然として獨り無事靜謐、運鑛業務却て例年に比して倍加するの狀態なりしも王總辦は居常戰々競々亂黨の襲擊を虞り、職に安んすること能はざりしを以て予は李維格と秘商し、更迭を斷行し劉維慶を上海より赴任せしめ王の後任者と爲せり。

予は第一及第二革命兵亂中一意大冶官民を慰撫し、鑛務を擁護すると同時に武昌政府黎元洪と諸般の交涉を圓滿に進行し、我鑛務をして一絲亂れざるの狀態を維持せしか、劉總辦に對する或重役一派の反對を惹起し一千九百十三年辭職するの已むなきに至れり、次て大冶鑛務局事務處理上の得失便否より打算して、昨年以來鑛局を庶務及工部に二大別し、庶務總辦を徐增祚とし、工部總辦には最初黃錫賛を任せしも彼れか萍鄉炭山に轉任せし後を承て目下王寵佑新に其職に就けり、日支兩國人の關係は益親睦を極め、排日の風潮毫も此地に波及せず、恰も日支兩國人に依て大冶なる一家を構成し、和氣靄々たる團欒を爲せるの感あるは予の特に愉懌不禁處なりとす。

大冶縣民は古來より蠻夷狄戎の風を脫せず、殘忍凶悍俗を爲し到る處今尙慘酷なる鬪爭紛擾を事

とす、俗に天上九頭鳥地下湖北老なる語あり、以て此地方の人氣一般を卜するに足る、哥老會曾て羈佔蟠據せし所に係り、興國附近の村落に至ては排外熱殊に強く猛獰暴惡生蠻の如きものあり、獨逸技師は屢々此方面の鑛物を調査せんと欲し、假扮變相深く內地に入りしも土人の發見する所となり人民の劇怒を買ひ凌虐酷責に遭ひ僅に身を以て逃脫するを得たることあり、從て縣治を管理する知縣の如きも衙門附屬の牢獄常に囚人充滿し、公事訴訟絕ゆることなく聽訟審案殆んと寧日なきのみならず、知縣に肉薄せる抗爭亦乏しからす、時に督撫に直訴を企て彈劾控告の擧に出つるものあり。

彼の革命動亂發生以來更に大刀會、海湖會、天王匪の如き匪類各所に巢窟を構へ其勢力極て猖獗、隨て地方人家に刼掠姦淫を縱にし、常に官憲に對抗して毫も忌怖するの模樣なく清朝より中華民國に至るまて湖北六十三縣內、最も難治の地なりとて大冶に赴任するを肯んせさる官吏鮮からす、明治三十三年我製鐵所の出張官署成り、直接我鑛石運輸の事業に關係ある支那大冶知事は、恰も十六人の更迭を見るに至れり、即ち林、李、湯、肅、汪、何、江、彭、賴、沈、黃、梁、陳、張、袁、史之なり、因是觀之約一年の任期を知事一人に交附するの割合に當り、縣治の擧らさる寧ろ當然の事に屬す、然かも予か在治十六年間我製鐵事業に關係ある大冶鑛山、大冶鐵路に就ては人民も匪徒も未た絲毫の紛擾妨害を與へさるのみならす、益能く我に接近し親睦し、同文同種唇齒輔車の常套語の意義を實際化するものあるは、實に支那に於ける不可思議の一事に算せられたるなり。

是より予は職責の許す範圍に於て極て簡單に大冶鐵山に關する日支兩國の關係を說かんとす、抑も兩國甲午の役に先たち我政府に於ては製鐵所創立の議熟し、各種の方案に就て其調査を進捗しつゝありしか、平和克復の後遽に其創設を急速にするの要を生し、從て內地は固より遠く清韓及南洋に向て原料鐵鑛の調査を開始せり、時の製鐵所長官和田維四郎氏は故伊藤公、井上侯兩元老及青木、曾根兩子等の當局に諮議し、秘かに清國鐵鑛に着眼し、其購入を策することの本邦製鐵業の將來に對し絕

對に有利なることを率先稱道し、極て機密を以て其外交方針に全力を傾注せし結果、北京政府の允諾する所となり、次て湖廣總督故張之洞及盛宣懷等と直接熟議を重ね、結局本邦産の石炭骸炭と大冶鐵鑛との交換的通工易事の契約を諦結せり、是實に明治三十二年四月七日の調印に係り、十五年條約なるもの則是なり。

當時製鐵所技監たりし大島道太郎氏、此契約訂結に方り和田氏の謀議に參し、又企劃すること尠からざりしなり、而して彼我其契約を履行するが爲に大冶鐵山、漢陽鐵政廠及我政府に於ては各自責任者を任命し、澁滯なく事務の實施に就かしめたり、曾て支那に雇聘せられ多少其風俗に通し鑛務に經驗を有せし予は、製鐵所より撰はれて其任に當り明治三十三年六月、先つ漢口に到着し張總督、盛製鐵所督辦及解鑛局總辦等と偕に諸般の協商を完結し、汽船飽ノ浦丸に大冶鐵鑛一千六百噸を裝載して同年七月四日無事大冶石灰窰波止場を解纜せしめたり、之れ實に外國鐵鑛を我邦に輸入せし濫觴となす。

此時に方り北清に恰も義和團匪の蜂起あり、楊子江一帶亦其餘黨群を爲し、水陸兩面鼓噪鬧亂滋擾嘈吵を極め人心競々寧日なく人民其業に安んせず、危險日に切迫せるものあり、從て列國中早く既に其領事館を引拂ふものあるに至り、歐米居留民の多數も亦楊子江溪谷一帶より避難せしもの尠とせず、鐵山に於ける當時の獨逸技師はフヒリップ、ブッデ、コフマン、ブルーメン、クラッケル等なりしか孰れも逸捷くも災害の未到に乘して先つ難を上海に避けしも、獨り予は萬難を排して大冶に駐り辛ふして柝壞汚穢の一小屋を借り入れ、僅に雨露を凌くを得たり固より創業の際とて一の備品ある筈なく只一人一籐椅子に身を托し、日中百度以上、深夜尚且九十七度を降らさる酷暑に對抗し、虎性狼心の蠻民間に介在し、猛蚊臭虫の襲擊に耐へ漸く終始平和安靜を得たるもの、畢竟天祐あるにあらずんは何そ克く茲に至らん、予は當時を回顧追想する度ことに全膚粟を生せさることなし。

次て鑛務處理を敏活にせんと欲し、予は當局と協議し大冶に本邦駐在官署を設置し、駐在員を增加せり、然るに予か茲に日常の不便と事務進行に最大なる碍阻を感したるものは電報及信書の遲着緩漫なるにありし、當時電報は一旦漢口領事館に引受け之を幸便に托して予に轉送せしものなりしを、早きも尙三四日の後にあらされは之を見るを得さりし、信書亦之に準して遲着せしのみならす往々紛失遺棄の厄に逢ひ、時々開披して信書の秘密を曝露する等の危險を極め實に不規律にして又不安心なりしを以て、予は當時の淸國電報局督辦盛宣懷及大冶電報局長張繼祖と反覆磋商し、其同意を得るに迨て本邦當局に向け獻言する所あり、恰も憲政黨內閣成立し星亨氏遞信大臣たりしか一議に及はす之に贊同し、其結果大冶電報局は其時以後特に本邦と直通の電報發着を取扱ふに至り、獨逸の獨專利權の一部を崩壞するの端緖を開けり、超て翌年更に遞信省當局及在漢口郵便局長二橋季男氏等と屢々交涉する所あり、遂に本邦郵便受取所を大冶に設置することを得以て今日に及へり、今や我郵便局の信用は大冶鐵山の發展と俱に支那人間に極て根底を深くし、地方人民の貯金者頓に增加するに至れり。

十五年契約已に成り、旭旗翩翻たる我汽船か不斷開港地にあらさる大冶石灰窰に碇泊せるを見たる外人は驚跳怪異を深くし、悠ち哨探を放ち窺測查覈せしめ漸く日淸間に鑛石契約成立せるを知悉し、頗る紛囂を極めたるのみならす、獨逸の如きは軍艦を大冶に派遣して一種の示威的運動を試み、或は抗爭の前提として鐵山に於ける古代鐵渣の購入を交涉し、或は此方面の鑛區調查に名を假りて暗に人民に排日風潮を煽動し、鋭意專心、只管捲土重來の機會を瞷覘せしか、鐵山總辦解茂承か比較的親獨主義を懷抱せるを達觀し、借款を慫慂して鐵山の利權を攫得せんと試み、陰謀術策施さゝる所なく爲に十五年契約の前途は將に累卵風燈の厄運に逢着せんとするものあるに至り、所謂剴切なる危機は刻一刻に切迫せるの狀態を呈せり、然して大冶鐵山に關する內外人の注目は恰も其頃より增進し、

列國の遊歷者陸續接踵し、鐵山の宏大を喧傳するに由り、益獨逸人間に於ける反感を誘起し彼我暗鬪の形勢を胚胎するに至れり、斯くして予は暗流慘憺、事態不穩の情形を看破せしを以て機に觸れ時に應して、適切なる對獨案を具して屢元老當局に進達し、一面普く山野を跋渉し親ら精密なる鑛區地圖を製し、竝に地理、風俗、人情の機微を研鑽し以て可乘機會の捕促に備へり、就中重大なる大冶官民と特に親昵懇睦を重ね他日之を利用して巧に敵の機先を制するの伏線を豫備せり。

此時に當り本邦の財政は膨脹の極に達し、支出百端停止する所なく奚そ又海外の事業を顧みるの餘裕あらんや、搗て加へて製鐵所に對する論難攻擊は恰も此際爆發し、上下兩院亦採て當局彈劾の一大問題となさんとするあり、隨て到る處議論紛々製鐵所の存立すら頗る顧念焦慮せしむるに至る、予の献策の其意味に於て廟堂の首肯を受くるに拘はらす、其れか實行に就て稍逡巡趦趄ありしもの又何そ怪むに足らんや、明治三十五年十月予は歸朝を命せられたるを以て、着京後直に故伊藤公及井上侯に就て親しく大冶の實況を述て其後援を仰き坂谷男、故長谷川博士亦至大の好意を以て助力せられ、次て内閣の同意を得たるのみならす當時の小村外相は深く之を贊せられ以て必成を期せらる、翌三十六年春に至り政府の方針一決し、盛宣懷と大冶借款の交渉を開始することゝなれり。

予は幾くもなく上海に出張し、當時の小田切總領事と與に盛宣懷及其委員楊綏鄉、李維格等と屢會商し双方の議熟し、獨逸の頑拗なる反對離間策ありしに拘はらす、三十六年十一月一日遂に假契約の訂結を見るに至れり、然して此協商の進行中大冶に於ては績辨解茂承及獨逸技師の奸計苦肉策は殆んと絶頂に達し、其魂膽詭術凄愴たりしものあり、其一例を示せは鑛山附近の鄉紳に贈賄し排日熱を鼓吹し、或は我機密書類の提供に托して拾萬金を我某員に喰はさんと試み、更に輕易なる條件を以て借款に應することを諷する等、彼等の暗中飛躍端睨に苦しむものありし、加之解茂承は故李鴻章、丁汝昌の幕僚たりし閲歷を有する人なるか故に、此間の消息は深き研究を要せさるも亦自ら了解し得へ

きなり。

大冶借款假契約は上海に於て調印の後直に北京に轉致し、重て廟議に附せしに故張之洞一時大に之に反對せしも、中途理義明白、我に何等一點の野心なきを悟了し、翻然之に賛同し、明治三十七年正月十五日彌本契約の調印を完了するに至れり、是則三十年契約なるものにして實に日露開戰に先たつ僅に二旬、間髪を容れさる危機に際し辛ふして成立せしものに係り、本邦製鐵原料の基礎を確立したるもの一に天祐の庇護に依らすんはあらす、調印已に成る大冶支那當局の更迭獨逸技師の減員等頗る予か意を強むるに至れり、是より獨逸と本邦との勢力顚倒し、大冶鑛務上に於ける指揮權は殆んと本邦人の左右する所となり、此地方一帶に關する本邦人の信用亦日進月歩の狀態を保持し、以て今日に及へるものなり、三十年契約訂結に先ち我南清警備艦隊は爪生司令官指揮の下に曾て大冶鐵山を視察し我居留官民に間接後援を與へしか、事成るの後に於ても帝國第三艦隊に屬する軍艦は絶へす長江を遊弋し、途次必す大冶に寄港するを怠らさるものあり。

日露戰役中予は鐵鑛及銑鐵を輸送し、軍國に於ける鐵材の需要に毫釐の遺憾なからしめ運搬船舶は都て外國租船なりしに係らす、遂に一艘をも敵艦の捕獲する所とならさりしは又製鐵事業の造化至大なりと云ふへし、明治三十七年六月露國は列國に知照して、清國の中立違反として戰時禁制品たる大冶鐵の輸出を指摘して抗議を提出せしも、之に對する我當局の辯駁は理義明晰、公理一貫何等の支障を來たさゝりしも、是より歐米人の注目一層深大となり、鐵山視察の外人一時其數を劇增するのみならす、列國の軍艦大冶碼頭に碇泊するもの遽かに頻繁を加ふるに至れり。

大冶借款協商に對する予の抱持せし最初の意見は租借年限を九十九年とし、鐵山全部の稼行一切を擧て我政府の管轄に歸せしめ、從て清國鐵廠需要の鑛石も經濟上の打算より我より之を供給し、兩國の製鐵事業を極て簡便ならしめ價格依て以て自ら低廉し、歐米鐵材と優に頡抗對峙せしむへく、進

んて大冶に數多の熔鑛爐を築造し、盛に銑鐵を製出し、本邦内地の鐵工場は悉く之を製鋼所と爲すを得策とするにありしか、當時彼我種々特別の情形を存し機に隨ひ時を相て更に調和制宜の必要を生し、且つ只管契約を急くの理由ありしを以て三十年限定の契約に止め、兩國通工易事の基礎を確立せしものとなす。

大冶鐵鑛の價格は第一回契約に際し、其最良鑛石一噸大冶波止場船渡にて洋銀貳弗四拾仙、二等鑛石洋銀貳弗貳拾仙と規定せしか、第二回契約の時に之を變更して一等鑛を洋銀參弗二等鑛のみは据置となせしか、次て洋銀相場變動不定より生する相互計算の錯雜を杜絶するの目的にて、彼我熱議の後遂に一等鑛石一噸船渡にて金貨參圓、二等鑛石を金貨貳圓貳拾錢と決定せり。

鑛石の運搬は明治三十三年以來、三菱合資會社の請負に係り大冶若松間の運賃、一噸四圓貳拾錢揚高にて仕拂ふことゝなりしも、其後三菱は屢々運賃低減を承諾して、遂に現今一噸金貨貳圓八拾錢となせり。

一千九百八年(明治四十一年)盛宣懷及其與黨は大冶鐵山、漢陽鐵政廠及萍鄉炭山を合併して漢冶萍公司なる名目を以て、資本金貳千萬弗とせる純然たる商事會社を組織せり、是より事々株主總會の決議を經るにあらされは斷行し難き情勢を生し、盛一派の專擅意の如くならさるのみならす、漸次朋黨比周の弊を發生し、却て事業の進運を阻止せしと尠からす、而して此時に當り世界に於ける利用厚生の技術は益進歩し、科學の應用蘊奥を極め、擧世悉く是工業手藝に熱中し、煤塵冲騰、宇宙爲に烟霧と變し乾坤依て火機轟々の巷衢と化す、隨て鐵材鐵器の需要は駸々として彌々昌盛興旺に趨き、其發展殆んと際限なく列國の製鐵業は年々擴張を斷行し、益生產額を增加するの光景を呈せり、漢冶萍公司の組織發表は支那國民に多大の好感を與へ、其成立を歡迎すると同時に、稍鑛物外溢に關して排外熱を昂上せしめたるの觀ありし、之れ畢竟列國か支那に向て礦山利權を攫得せんと欲し百方企劃を逞せ

し反動に外ならず、此時に方り公司の總理は盛宣懷にして經理の重職は李維格自ら之に當り、爾來鋭意熱心事業の擴張振興に努め製銑製鋼の裝置設備は悉く歐米最新式に準據し研鑽推究、所謂其要を摘み其粹を拔き、改變革新を斷行する四星霜の久しきに涉り、財政の紊亂を匡正し隱伏錯綜せる情實を排斥し、收支を替核し工事を督勵し、殆んと舊體を一新して從來の缺損を補充するに至れり、今や將に工事を創めんとする大冶熔鑛爐の開設は、實に又此時に萠芽せしものに係れり。

曾て石炭骸炭を本邦より輸入し、交換的に我に鐵鑛の供給を承諾せし盛宣懷は公司の所有せる萍鄉炭山に於て其質良好其量無盡、燒製の骸炭亦極て良質なるものを得るのみならず、漢陽製の軌條は頗る支那鐵路の需要に恰當し、大冶鐵鑛の採掘漸く又其數量を劇增するものあるに拘はらす、依然として歐米人崇拜の傾向を有し、漢陽鐵廠、萍鄉炭山多數の外人を使用し其跋扈に委し就中萍鄉の如きは一時獨逸の殖民地の觀を呈せしものなり、而かも大冶方面伊、佛、英の三國傳道師は醫院學舍を築造し、輪換の美を以て盛んに支那人民の人氣吸收に餘念なく、獨逸及米國は兵艦を派して鑛山を調査し、殊に獨は我に對し暗に報復的の示威運動を開始する等、一意權勢の擴張を施すに急にして殆んと傍若無人の體度を持せり、予の獨り此間に介在して既得の權利を確守し、强敵に對抗せし苦心は奈何唯讀者の推察に任する耳。

一千九百十年(明治四十三年)四月米國シャトル市西方鋼鐵會社社長ハーバート、ロウ及桑港汽船會社ロバート、ダラーは上海に於て漢冶萍公司總理盛宣懷、協理李維格と俱に銑鐵及鐵鑛購買契約を訂結し、三艘の大運送船は大冶江岸に其雄姿を浮へ鑛石を滿載して解纜せり、予は當時本件に就て强硬なる反對意見を有し、支那當局と直接抗爭すると同時に我當道に向て善後案を獻言し、更に翌月歸朝の上製鐵所長官中村雄次郎男及故小村侯爵と親しく熟議し、遂に根本的解決方法を決定し、我担保物件を確保するに至れり、今米國契約の大要を附記せんに、千九百十一年より起り向ふ十五年間每年鐵

鑛及銑鐵の最小限參萬六千噸、最大限七萬貳千噸を購入し、其價格は鐵鑛每噸米貨一弗半、銑鐵每噸米貨拾五弗にて大冶船渡となすにあり、但一千九百十年に限り特に鑛石及銑鐵二萬噸つゝを臨時購入することを承諾す、其鑛石の標準品位を鐵分六十二%、不純物含有量銅〇・五%以下、燐〇・一〇乃至〇・〇五%、硫黄〇・一〇%硅酸七・六%と規定せり。

米國は斯くして大冶鐵鑛の購買を中止するの已むなきに至れるも、尚屢々支那觀光團を組織して楊子江畔の各地を跋渉し、犀利なる視察を遂けつゝあるの一事は、予の敢て特筆を辭せざる所なりとす。

明治四十三年十月我鑛石船一水夫か醉後誤て支那人を殺害せし事件を發生せしも、予は極て敏活に支那當局と善後處分を婉商し、百方策を講して慰撫に努め、遂に毫絲の紛擾を惹起すること勿らしめ、鐵山の採掘鑛石の運搬上何等の故障を發生せざるを得たり、當時三菱社長岩崎男爵は鑛夫休息所一棟を新築寄贈し以て賑恤の誼を支那人に示せるか、今尚此建造物は鑛夫苦力唯一の慰樂場として深く男爵の好意を記念せるか如し。

一千九百十年(明治四十三年)十月中村製鐵所長官は大冶鐵山を視察し、更に北京に赴き盛宣懷、李維格等と會見し、重要なる磋商を遂けんとするものあるを以て予は均しく俱に北上し、列國排擠競爭激烈の間に在て長官を輔佐して能く我目的を貫徹するを得たり是に於て大冶鐵山に關する我權利は百尺竿頭に一歩を進めたるの感あり。

一千九百十一年(明治四十四年)十月初旬武昌城頭、革命起義の兵亂暴發し、漢冶萍公司の基礎又爲に多少の動搖を免る能はさりし當時、中央政府に在て最大勢力を有し、外國人に關する借款其他重要の折衝一に其掌握に出てたる郵傳大臣盛宣懷は革命軍の壓迫に遭ひ、倉皇我邦に避難し、全然公司の危險を顧慮るすに暇なく、其全財産は擧て殆んと革命派の蹂躪に委棄するの已むなきに至れり、要之欝

勃せる排滿興漢の風潮は咄嗟禹域四百餘州の秩序を紛亂し、南北の形勢に一大變化を來し、人をして其終極を想像するに苦ましめたり、然かも革命動亂發生地に接壤せる大冶にして、萬一當時長江一帶に於けるか如く悉く白旗を揭けて革命亂黨に與し、僭伏せる匪類の之に乘するものあらん歟、實に我鐵鑛事業に鮮少ならざる打擊を被りしならんも、幸に予は機敏に黎元洪に交渉し、大冶の一地を特別中立地たらしめ、以て我利權の擁護を策し超然として靜謐無事なるを得たり、然かも大冶鐵山の富源は人口に膾炙する所なるを以て、南北兩軍は孰れも之を擔保として列國より軍資借款を得んと欲し、從て漢冶萍公司に對する兩軍の壓迫强制、其極度に達し漢陽鐵廠及萍鄉炭山は夙く已に革命軍の占有に歸し、剩す所は唯大冶鐵山のみなりしなり。

此時に當り予は鋭意萬難を排し、革命政府と熟商し大冶鑛務を庇護し、寸毫の阻障を事業上に生せしめざるを得たるのみならず、漢陽鐵廠及大冶礦局の汽船艀舟及重要物件等悉く之を保管し、戰亂の危險、匪黨の刼掠より其慘禍を免れしめたり、尙茲に特筆すべき一事あり、予は李維格と某艦內に密會し、日支合辦案を評議し、火急之を我當局に報道し、遂に其成立を見るに至れり、蓋し今日の漢冶萍日支合資問題の由來は畢竟予と李との此會見の結果に萠芽せるものにして、後ち其契約の社會に漏洩するに至り、又實に列國人を聳動せしめたるものなり。

革命兵亂の長江溪谷を震撼するや、列國人の最も困難を感せしものは、電線の切斷に基因する通信機關の靈便を缺ける一事なりしも、予は幸に豫め武昌當局と密商し、其特設機關を使用するの特許を得たるを以て、毫も鑛石輸送等我緊切公務に何等の不便を見さりし、此時に於て漢冶萍公司の上海總局は、全然其事務機關を閉鎖するの已むを得さるに至り、大冶礦務運轉資金の供給の途絕へたるも予は我當局の同意を得て特別借款を提供して之を救助せり。

一千九百十二年(明治四十五年)三月上海に於ける漢冶萍公司株主總會は日支合資會社契約を否決

せり、蓋し之れ革命政府内の異論百出せるに由ると雖とも、就中獨逸の煽動は猛烈なる反對運動を胚胎せしめたるものなり。

一千九百十二年(大正元年)の秋以來、漢冶萍公司の國有問題說漸く北京政府及武昌官場内に彌蔓し、孫武は國有後督辦たるを希望し、盛んに運動を開始するあり、之と同時に公司重役會及株主總會は革命政府の壓迫に耐へざるを名とし、結局北京大總統に向て國有請願を爲すの決議をなし、直に代表委員を北上せしめ、北京當局と百方磋商を經たるも、唯僅少の一時補助金の貸與を得たるに止り、請願の目的を貫徹するに至らざりし、然して此行動に前後して、湖北は漢陽、大冶の二要地其境域内にあるを名とし、江西は萍鄉炭山の其管轄地域にあるを理由とし、湖南は石炭運搬の航路及錢路の其省内を横斷するを根據として孰れも、其財産を各省官衙の所轄に移し依て生する利益を壟斷せんと試み頗る惡辣を極めしも、遂に成効するに至らざりし。

大正二年に入て北海道輪西製鐵所の需要鐵鑛を大冶より供給することとなり、爾來每年第二種鑛石の運搬を續行し以て我製鐵事業に一方面を開けり。

一千九百十三年(大正二年)七月爆發せる第二次革命動亂も我大冶事業には何等の影響を與ふるに至らず、却て空前の鑛石大輸送を遣憾なく完結するを得たり。

此時に當り北京武昌兩官場の漢冶萍公司に對する感情は依然好良ならず、如何なる方法に依るも此一大利源を政府の掌握に歸せしむへく百方惡辣手段を講したるの觀ありし、翻て我製鐵事業と該公司との關係を一瞥するに、益其聯鎖の鞏固を必するの域に達し、東亞鐵政の基礎を確立する爲には勢ひ兩者の關係をして須く尙一層具體的親密に進むるの必要を生し、將來公司の國有たると、或は武昌政府の管轄に移轉すると、果た依然たる私立會社たるとに論なく、我既得の利權を永久に確保し、將來之れか發展に向て更に全力を傾注せさるへからさるものあり、予は此方針に準據して第一革命動

亂後事に觸れ機に乘し當局に献策し、且つ支那當道と懇商し、一意計畫の遂行に就て邁往勇進せるか大正二年十二月に至て稍堅實なる契約の成立を見るに至れり、其結果我最高技術顧問技師及會計顧問等孰れも其職に就き事業の刷新、調査及擴張工事の進捗中に係り、已に大冶袁家舖に敷地五十萬坪を購入し、將に二大熔鑛爐の築造に着手せんとす。

漢冶萍公司に關する我新借款は一時支那及歐米人の猜疑、嫉妬を招き排日熱を誘起し、支那官場の對公司策益嶮惡を極め、支那輿論又頗る猛烈なる利權回收を稱へ、其結果鑛石の輸出を妨害せんと欲し、一千九百十四年三月に至り特別重稅を我輸出鑛石に課するの案を提出し、或は輸出禁止を動議せるも、孰れも我正義公道の爲に中途撤廢するの已を得さるに至れり、其後一部の支那官民間には我眞意を悞會するものあり、盛んに新聞政策を利用して排日論を煽動せるも、大正三年八月突然爆發せる歐州大戰の影響に由て、其氣炎漸く低減せるの感あり、而して斯る際に於ても大冶鐵山は常に何等の風潮に感染せられす、全然別天地の觀ありしものなり。

予は大正三年十月歸朝を命せられ、滯京約三個月、專ら公司の將來に就て元老當局に献策する處ありしか、一千九百十五年正月下旬、北京に於ける日支交渉開始せられ、漢冶萍公司問題は固より該交渉案中の樞要なる部分を占めたり、今左に我提案と成立案並に公司借款明細表とを列記して、本稿沿革史の末尾を彩色するは、予の甚しく光榮とする處に係れり矣

提出案

現在日本出資者と漢冶萍會社との密接なる關係に鑑み、且つ兩國共同の利益を增進せんか爲め、支那政府は左の諸項を承認すへし。

第一項　支那政府は將來漢冶萍會社を兩國合併組織とするに同意し、且豫め日本の承諾無くして同會社の全財產及權利を單獨に處分し、又は同會社自身をして同樣の處分を爲さしむることを得す

第二項　支那政府は漢冶萍會社所有の附近にある全鑛山を該會社の承諾なくして他人に採掘を許すへからす、且つ若し是等の事を實行せんと欲する場合には、第一に該會社の同意を經ることを約すへし。

成立案

漢冶萍公司に關しては

（イ）他日該公司と日本資本家との間に合辦の議成りたる時は之を承認すへく。

（ロ）政府は同公司を沒收せさるへく。

（ハ）關係日本資本家の同意なくして同公司を國有と爲すことなかるへく。

（ニ）日本國以外より外資を公司に入れしむること勿るへきことを約すること。

漢冶萍公司日本借款明細表（大正四年三月現在）

契約年月	債權銀行	借入額	現借入高	利率
明治三七年一月	興業	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇円	二、一七三、三〇四・五六円	六分
明治四一年六月	正金	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇	七分半
同　十一月	正金	五〇〇、〇〇〇・〇〇	五〇〇、〇〇〇・〇〇	七分半
明治四三年九月	正金	八三〇、一五八・四六	八三〇、一五八・四六	七分
同　十一月	正金	六一二、七三〇・〇六	六一二、七三〇・〇六	七分
明治四三年十一月	正金	六一四、三九五・一〇	六一四、三九五・一〇	七分
明治四四年三月	正金	六、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	六分
大正元年二月	正金	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	二、九七六、〇五九・九五	七分
同　二月	正金	一二〇、〇〇〇・〇〇漢口兩	六〇、〇〇〇・〇〇兩	八分

同　十一月	正金	五〇〇、〇〇〇・〇〇円	五〇〇、〇〇〇・〇〇円	七分
同　十二月	正金	二、五〇〇、〇〇〇・〇〇上海兩	二、五〇〇、〇〇〇・〇〇兩	八分
大正二年十二月	正金	六、〇〇〇、〇〇〇・〇〇円	六、〇〇〇、〇〇〇・〇〇円	七分
大正二年十二月	正金	（九、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇円ノ内）		
大正三年六月	正金	七六五、七〇七・四三円	七六五、七〇七・四三円	
大正四年二月	正金	八八、四〇〇・〇〇上海兩	八八、四〇〇・〇〇兩	
同　二月	正金	一五〇、〇〇〇・〇〇上海兩	一五〇、〇〇〇・〇〇兩	
明治三九年二月	三井	一五〇、〇〇〇・〇〇上海兩	一五〇、〇〇〇・〇〇円	
大正二年七月	三井	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇円	二〇〇、〇〇〇・〇〇円	
同　十一月	三井	二〇〇、〇〇〇・〇〇上海兩	二〇〇、〇〇〇・〇〇円	
		五〇〇、〇〇〇・〇〇円	五〇、〇〇〇・〇〇円	
合計		二四、三二二、九九一・〇五円	二三、一七二、三五五・五六円	
		一二〇、〇〇〇・〇〇漢口兩	六〇、〇〇〇・〇〇兩	
		三、〇八八、四〇〇・〇〇上海兩	三、〇八八、四〇〇・〇〇兩	

（未完）